

釈迦八相倭文庫
全

特36

774

205178-000-1

特36-774

釈迦八相倭文庫

尾関卜ヨ

M23

EDV-0200



特36

774

No. 3604

23



畢
如



腰元卯ノ花

橋曼弥

耶輸陀羅女



佳人之危節操堅

優陀夷

南花女



釋
迦



車
匿

悉
達
太
子

斷
夫
袖
殘
去
今
錄
勝

耶
輸
陀
羅
女





家の貞と云ふは
と叫ひ農と
首陀と云ふは
あん其玉族の正統

潘晏弥

未だ地定
まらぬ向ト玉種
其が娘の中より地定
ひのふさぎし臣
進め申せし者
善見方へ使者
て其由仰達
小善覚の
ひ大方あま
潘晏弥
耶の両女
差上げ
方れも



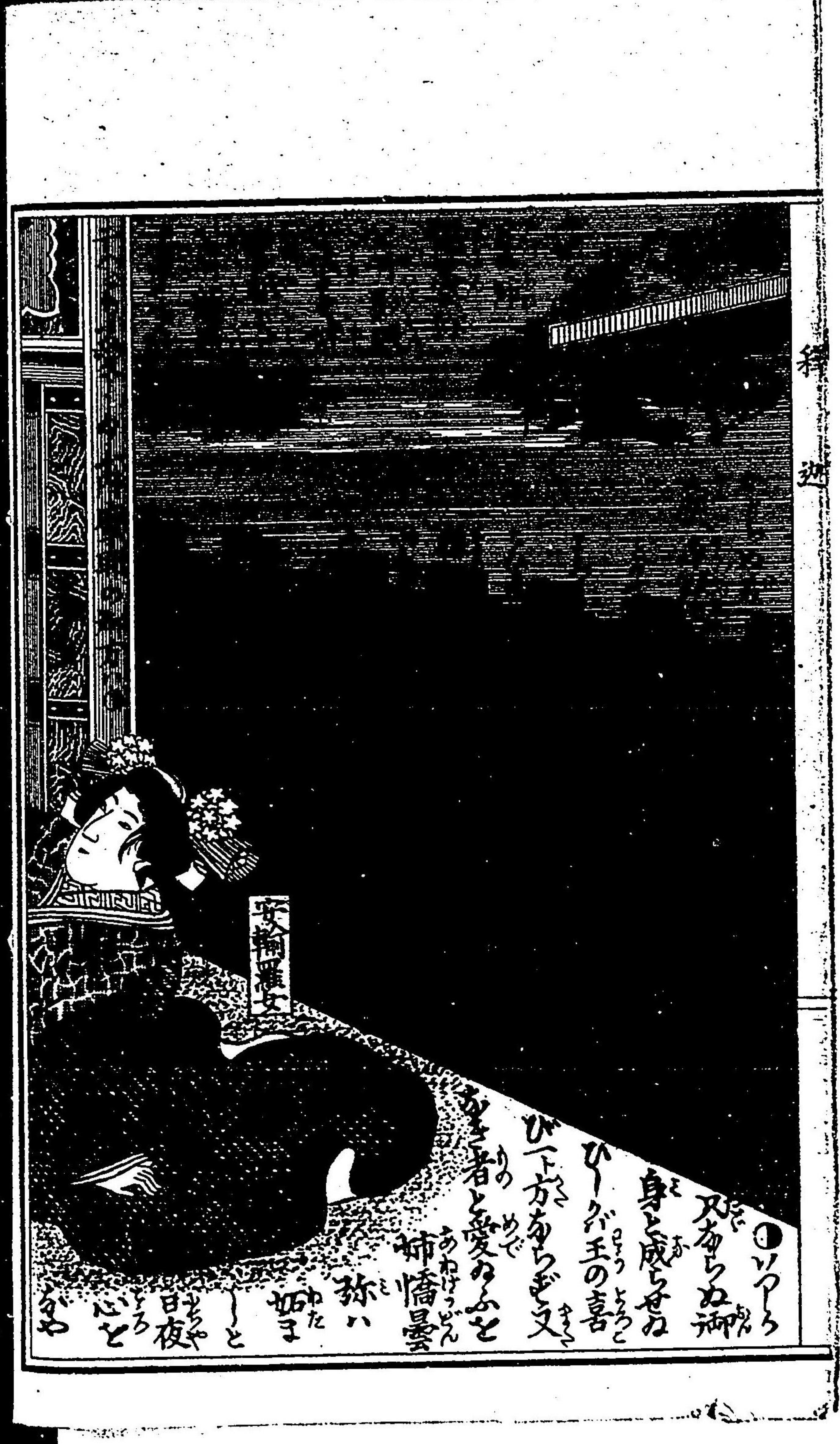
抑印土と云ふは
昔天竺といへり
世界の始めと云ふは
り国民百姓
別れ王族を刹帝利と
い僧門を波羅門
と云ふ

摩耶夫人

飯王
云ふ君



永達太子
 仙二人
 山の麓
 宿院
 合
 軍と示
 の馬將
 御附
 密
 られ
 せ
 耶の御
 向座



永達太子
 身と成らぬ
 又ありぬ神
 ひくが玉の喜
 ひ下がらぬ又
 心を愛のふと
 神憐曇
 夜
 心と

縁
 辺



宇習学問の云地もさく馬の道に至るまは皆一ど
生長ありて

常々ありて
風ふりあふ
露も消
行りあは
其非も
置若君の悉
達太子と御
名を稱し幼
雅ありしと
かゝる運
生長ありて



魔山の生かた大地破れてさるま小
心地はされども摩耶の御方の免
自御心れいあらは月日を送りぬ
内や
月満て
女くと
若君
誕生ま
くけら
のりれや
摩耶の
んがの
化の成り

常々ありて
風ふりあふ
露も消
行りあは
其非も
置若君の悉
達太子と御
名を稱し幼
雅ありしと
かゝる運
生長ありて



阿羅々仙

悉達太子

そなたを知るは性水渡らむに阿羅々仙の春と迎へり
君とぞあり扱も星極早番り早も阿羅々仙の春と迎へり
小父君太子の常々より佛門小御心とぞ
のちとぞ迎へり耶輪陀羅女迎へり
其甲斐も阿羅々仙の春と迎へり

耶輪陀羅女
追慕ひ



車匿

阿羅々仙の春と迎へり
太子ハ馬を下りし車匿ふ向ひのる様最下是より迎へり
○叶も汝ハ
馬を幸帰
大至小此由
差せはと



阿羅及仙

九

師余
 此處
 働
 け
 ら
 れ
 る
 又
 此
 處
 九



阿羅及仙

阿羅及仙
 の
 今
 の
 身
 の
 洗
 水
 の
 味
 は
 何
 だ
 か
 辛
 い
 間
 深
 く
 下
 り
 立
 て
 水
 を
 洗
 荷
 辛
 い
 九



阿羅多仙

+

阿羅多仙の
白狐の
子孫
及玉樹
悟りて
今間
清水を
て床
海身
勞れ
てあ
の岩
打ひ
膝
阿羅多仙
白狐の
子孫
及玉樹
悟りて
今間
清水を
て床
海身
勞れ
てあ
の岩
打ひ
膝
阿羅多仙
白狐の
子孫
及玉樹
悟りて
今間
清水を
て床
海身
勞れ
てあ
の岩
打ひ
膝



阿羅多仙

阿羅多仙
白狐の
子孫
及玉樹
悟りて
今間
清水を
て床
海身
勞れ
てあ
の岩
打ひ
膝





積音小開へし雲山座禅の
七打むの難行苦行の
行法の多かり

十一

提婆の
度をして
皆正法
導引の
若は滅の
理をま
天竺山
入る
りし実も
撃とてふ
あんな



釋迦

釋迦

阿羅漢の

行を修
一なる魔
玉の券三
人の美目
姿を
きま
けも
打排
山と下
弘の
勢の
共ふ



全明 治二十三年五月十六日
尾関 田舎
印刷者 尾関 田舎
發行所 尾関 田舎

